

日本文理大学 地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）  
平成 27 年度 事業検討・評価委員会 事業評価 報告書

平成 28 年 3 月 28 日

日本文理大学 大学 COC 事業

事業検討・評価委員会

総合評価

S:特筆すべき進捗が見られる。

A：順調に進んでいる。

B:やや順調に進んでいる。

C:やや遅れている。

D:遅れている・未実施

（総合評価、事業評価については、各委員の評価をもとに(別紙)にもとづいて判定を行う。）

【事業全体 総合評価】

総合評価： A

- 概ね順調に進んでいる。取組の継続に向け、分かりやすい成果が必要である。
- 「熱意なくして、成し遂げられた偉業は今だかつてない」と云われている。正に日本文理大学の COC 事業には、学長を始めとする教授、職員の熱意が伝わってくる。学生も、その熱意によって動きが活発である。本市では、日本文理大学に元気ももらっている。感謝
- 教育、研究、社会貢献ともに全学的な取り組みに成功しており、プロジェクトの数と多様さ、参加学生の数、科目の数など申し分のない進捗が見られる。
- COC 事業への全学を挙げた体制によって、さらなる事業展開が計られていくことが期待できます。
- 継続する中で、地元企業の評価の向上、OB、OG ネットワーク強化につながることを期待したい。
- 地域に出ることによりまず人間力が UP してきています。このことが基本となり地域生活についてより深く考え地域課題を実践行動の中から理解してきたと思われまます。今後はそれぞれの研究課題を有機的に繋ぎ総合的に地域課題を解決する為の提案ができるようになっていただきたいと思ひます。
- 大分県立看護科学大学との成果発表会 & 合同シンポジウムも多くの来場者に取り組みを見せることができ素晴らしかったと思う。他大学の学生活動も盛んで、地域のイベント行事に学生が参加支援することが当たり前になりつつある中で、COC 事業として今後どの地域と連携するのか興味がある。例えば私たち NPO と地域が課題解決していきたい時に、COC 事業を誘致したいということになれば可能なのか。短期のインターン的なことから長期の地域支援と学生育成をかみあわせて提案ができればと思う。

委員評価：S (1)、A (7)、B (0)、C (0)、D (0)

【教育事業評価】

事業評価： A

- 地域志向科目数に関して目標値を大幅に上回って達成するなど、全学的な取組の成果が表れている。
  - 教養基礎科目である「大分学・大分楽」を必修化とするなど、教員と職員が一体となった集団指導体制ができています。地域密着型の大学、地域に必要とされる大学を目指している姿が良く見てとれる。受け入れ自治体として大変ありがたい。
  - 正課教育における座学と体験活動、正課外教育における体験活動など多様なバリエーションが用意されており、正課教育の科目数を見ても全学的な特筆すべき進捗が見られる。
  - 地域課題の解決というテーマにより、学生たちに使命感や責任感が生じ、内面的な成長や学びへの動機付けとなっている。
  - 地域との実践的協働活動の具体的内容、取組状況とも、地域の視点から高く評価できる。
  - 学内教育から地域にでることにより、自然科学、コミュニケーション力、現状認識よる問題提起、問題解決力等の総合実践の場ができたと思います。
- いろいろなテーマに応じたプロジェクト毎に様々なプログラムが行われている中で、同じ学生チームが多くのプログラムに関係しているのが見られた。大学全体の学生が様々なプログラムにかかわり、地域との連携や課題解決の体験をしていくかが課題かと思われる。

委員評価：S (1)、A (7)、B (0)、C (0)、D (0)

【研究事業評価】

事業評価： A

- プロジェクトに関わった学生は、地域との接触でコミュニケーション能力や柔軟な適応力が身につけてきていると感じる場面が多くあった。
- 本市の土師地区では、防災と生物多様性回復の研究、全市的には、高齢者の徘徊時の解析画像の研究、プラズマの化学反応を応用した農業の可能性の研究など、各分野での研究が真剣に行われている。
- 共同研究が目立ち、ここからも全学一致での取り組みがうかがえる。今後は、とくに学会誌などへの投稿による全国的な波及効果を期待したい。
- 年度を重ねることによる研究の深まり、拡がり期待できます。
- 研究課題がより現実の状況を認識した上での計画、実行であるためその中からの今後の方向性等が見いだせ、より深い問題意識、現状把握ができるようになったのではないのでしょうか。
- 本来の工学、経済の特徴を活かしつつ、地域福祉のもつ課題解決への研究へ取り組んでいる姿勢が感じられる。すぐには成果や効果が表れにくい部分もあるが、研究継続をしてほしい。

委員評価：S (0)、A (8)、B (0)、C (0)、D (0)

## 【社会貢献事業評価】

事業評価： A

- 地域向けボランティアの活動数が目標を下回っている。
- 本年2月13日（土）、本市庁舎2階において、NBUチャレンジOITA地域創生活動報告会が開催された。市民も予想を上回る参加があり、全体で約100名の参加となった。学生とりくみ報告で7報告、地域プロジェクト研究発表（教員）で3報告、計10報告となり、3時間を費やしたが、参加者は真剣に聴き入っていた。熱気ある報告会となった。
- 参加学生数、プロジェクトの多様性など、進捗として申し分なく特筆すべき成果を上げている。
- 次年度以降、COC事業の教育・研究の成果と連動した事業がさらに増えることが期待できます
- 社会貢献と聞くと、ごく一般的な物を考えがちですが、実際の活動内容を聞くと、考えてきていたイメージと違った。より広がった社会貢献とも考えられ、行動範囲の可能性が出来たのではないのでしょうか。
- 大分市佐賀関地区、豊後大野市など地域との良好な関係もでき、住民の方から学生に対して期待度も高く評価されていること。

委員評価：S (3)、A (4)、B (1)、C (0)、D (0)

### 事業検討・評価委員会 学外委員

大分県企画振興部審議監 中島英司

大分市商工農政部次長 玉野井雄二

豊後大野市 副市長 赤嶺謙二

(一社)日本財団学生ボランティアセンター 理事長 西尾雄志

(一社)セブノーイレブン記念財団 九重ふるさと自然学校 川野智美

日本政策投資銀行 大分事務所 所長 武田浩

大分県中小企業家同友会 代表理事 佐藤貞一

NPO法人 おおいたNPOデザインセンター 代表理事 山下莖三

(別紙)

総合評価、事業評価の算出方法

次式より評価点を算出し、総合評価・事後評価判定表により、判定を決定した。

評価点 =

$$(4.0 \times S \text{ 評価の数} + 3.0 \times A \text{ 評価の数} + 2.0 \times B \text{ 評価の数} + 1.0 \times C \text{ 評価の数}) \div \text{評価委員の数}$$

※小数第2位を四捨五入とし、小数第1位までの数値で扱う。

評価点	>3.7	>2.7	>1.7	$\geq 1.0$	<1.0
総合評価・事後評価	S	A	B	C	D